

<第 4269 回>

目的地：蓬莱山（比良）

担当者：川口

実施日：2022 年 7 月 17 日（日）

形式：日帰りハイキング

費用：¥3,440.-

参加者：7 名

天気：曇り一時雨

行程：

JR 堅田駅(8:50)⇒(9:21)下坂下→葛川橋(9:37)[準備](9:50)→(11:40)小ピーク[休憩](11:48)→(12:40)小女郎ヶ池[昼食](13:00)→(13:40)蓬莱山[休憩](14:15)→(14:54)金毘羅峠→(16:00)金毘羅神社[休憩](16:10)→(16:47)JR 蓬莱駅[解散]

感想：

やはりそのバス停で下車したのはぼくたちだけだった。

どういう訳か、ぼくの選ぶコースはいつも人気がないらしい。もっとも、ひと気より獣の気配が濃厚な山がぼくの好みではある。静かに歩けるコースを、探し求めてはいるのだが。

江若バス、下坂下で下車した 7 名は、サカ谷道の登山口へ向かう。今日はサカ谷道から小女郎ヶ池へ、そして蓬莱山を目指す。バスから眺めた比良の山々に、重い雲が立ちこめているのが気がかりだった。

谷筋の堰堤を巻くように登り、サカ谷道をゆく。雨上がりの登山道はしっとりと潤い、コケをまとった倒木が美しい。針葉樹に囲まれた人工林に、雨のしずくがよく映える。

沢を渡り、徐々に標高を上げてゆく。

と、振り返ると後ろがついてきていない。

どうしたのだろうか、声をかけると何やらザワついている。

一ヤマビルだ。

よく見ると、茶色くて小さな、ミミズをうんと短くしたような生き物が、地面にうじゃうじゃとうごめいている。ぼくのブーツやズボンにも、数匹がしがみついていた。ひいひい。

ヤマビルは雨上がりによく出没するというが、まさかこれほどまでとは。ヤマビルゾーンを脱するべく、逃げるように尾根を登った。

蓬莱山の稜線に出ると気持ちのよい風が吹く。時折、雲の合間から太陽が顔をのぞかせ、心配していた天気も大丈夫そうだ。エアリアでの最初のチェックポイント、P964 の手前の、小ピークわきで休憩した（なぜ P964 じゃなくて、その手前がチェックポイントなのだろう）。

すると”キヨコキー”と、口笛のような、野鳥のさえずりが聞こえてきた。

イカルだ。

「分かるんですか」

ええ少しなら。

山を歩きながら、野鳥の声が耳に届きそれを同定できているうちは、余裕を持って行動できているとぼくは考えています。

他にも”特許許可局”と聞きなされる、有名なさえずりが聞こえてきた。その昔、戦国武将がこぞって鳴かせたかった鳥である。（繁殖期に入れば、ほおっておいても鳴くのにね）と思うぼくは家康派か。小女郎ヶ池へと続く道中、ホトトギスのさえずりが森に深く木霊していた。

小女郎ヶ池は滋賀県でもっとも標高の高い池だ。南船路村（現木戸南船路）に住むお孝と、池の主との伝承がある。主に見初められたお孝は、自分の左目をくりぬき夫に渡し、「子供が泣いたらこれをしゃぶらせてほしい」と伝え、池に消えたという。それ以後、この池は小女郎ヶ池と呼ばれるようになった。

そして小女郎ヶ池を挟み、北東にそびえる蓬莱山の山容が美しい。斜面に広がる緑の草原が鮮やかで、太陽を浴びながら草木がキラキラと輝いている一はずだった。

が、ついさっきまで見えていた蓬莱山の山頂が、白く霞んで見えなくなった。次第に冷たい風が吹き始め、西の空がどんよりと曇ってきた。池のほとりて昼食をとっていると、ついにポツポツと降り出したのだ。

とはいえ、さすが皆さん山慣れていらして、この程度の雨なら誰も動じませんね。

「雨に煙る小女郎ヶ池も、またいいですね」

などと言いながら、ぼくは傘を差しながらパンをかじっていた。

が、それは唐突に訪れた。

バケツをひっくり返したような大雨が、辺り一面を激しく打ち始めたのである。

急いでレインを着込み、ザックカバーを用意する。

右手にパン、左手には折りたたみ傘。

しかし、もうここにとどまってはられない。昼食を切り上げ出発する。雨と風が視界をさえぎり、登山道はすでに川のようなようだ。

「久しぶりに本物の山を歩いているようですね！」

「しかし下山は迷わないよう気をつけなと！」

マウンテン・ハイとでも言うのだろうか。荒天がだんだん楽しくなってくるから不思議である。やはり皆さん山慣れていらして、荒天ぐらいじゃ動じない。標高わずか 1100m ほどだが、やはり 1000m を超えると麓とは気候が異なり、山が山らしくなりますね。

5 分ほどで小女郎峠に到着するも、真っ白で何も見えなかった。この稜線からは絶景が広がっているのだが、すぐに蓬莱山へ向かって出発する。蓬莱山への最後の登りをゆく途中、雨がやみ雲の隙間から陽光が差し込んできた。山頂で記念撮影をするころにはすっかり晴れて、びわ湖や比叡山、京都北山を遠くに望む。

昼食が短かったぶん山頂でのんびりと休憩し、金毘羅峠への登山道を探りさぐり進んで下りた。ロープの張られた難所を過ぎると、またシトシトと雨が降り出す。金毘羅神社の名水を経て、JR 蓬莱駅へとアスファルト道を黙々と歩く。

ヤマビルに襲われ雨に降られはしたが、低山らしからぬ山行を楽しめた。

累積標高差登り 750m、下り 1070m、距離約 10km。

今日もよく歩きました。

特 記：

サカ谷道はヤマビルの生息域です。一部、踏み跡が薄く道迷いに注意が必要です。